

## 平成 27 年度 南三陸町総合戦略推進会議（第 1 回）

**日 時** 平成 27 年 7 月 29 日（水） 18：30～21：00

**場 所** 南三陸町役場庁舎 2 階 大会議室

**次 第**

- 1 開会
  - 2 挨拶  
南三陸町長 佐藤 仁
  - 3 協議等
    - ・ 会議の趣旨、進め方について
    - ・ 人口ビジョンについて
    - ・ 総合戦略の基本方針について
    - ・ 総合戦略の内容について
  - 4 その他
    - ・ 事務連絡等（次回日程、住民ワークショップ、他）
  - 5 閉会
- <資料>
- 資料 1 「まち・ひと・しごと創生について」
- 資料 2 「南三陸町人口ビジョン（素案）抜粋版」
- 資料 3 「南三陸町総合戦略の基本方針（案）」
- 資料 4 「将来人口推計」

**出 席**

委員：16名

事務局：4名（太齋係長、阿部主査、畠山主査、佐藤主査）

事務局補助（南三陸町復興まちづくり支援事務所）：6名

傍聴：8名

マスコミ：1名

## 委員名簿（敬称略）

|          |         |           |          |
|----------|---------|-----------|----------|
| 小野寺邦夫（産） | 高橋未来（住） | 小野寺さとみ（労） | 伊藤孝浩（産）  |
| 渡辺公子（住）  | 佐藤太一（学） | 高橋直哉（産）   | 稲本都志彦（産） |
| 甲斐茂利（金）  | 安藤仁美（住） | 及川美香（産）   | 小山祥子（住）  |
| 佐藤克哉（産）  | 重富裕昭（言） | 齋藤めぐみ（住）  | 最知明広（官）  |

## 第 1 回 南三陸町総合戦略推進会議 会議録

### < 1. 開会 >

- ・ 本日の次第及び資料の確認を行った。

### < 2. 佐藤町長挨拶 >

本日は第 1 回目の南三陸町総合戦略推進会議となります。地方創生は、国が日本の人口減少対策に真正面から取り組もうと立ち上げました。これを受けて、南三陸町としても、4 月 1 日に地方創生・官民連携推進室を立ち上げ、また 8 月 1 日からは財務省より室長が赴任することになりました。町として、この問題にしっかり取り組んでいきたいと考えています。

地方創生の話が挙がった時、本町の場合は復興事業で手一杯な状況にありましたが、しかしながら、地方創生の仕事を進める中で、復興事業と地方創生の仕事が根っ子の部分で絡んでいることが分かってきました。復興事業も地方創生も、町の将来を考えていくことは同じです。

後ほど、南三陸町人口ビジョンについて説明させていただきますが、衝撃的な数値です。全国が人口の減少段階に入っている中、一つの自治体だけが人口を増やすのはあり得ないことです。大事なことは、これから、20～30 年という期間の中で、人口減少を踏まえつつ、持続可能な地域社会をどのように構築するのかということです。人口減少対策は、どちらかというに対症療法的な考え方になりがちです。そうではなく、一体根本の原因は何かについて、皆さんで議論を深めながら、見つめていくことが大切だと思っています。

持続可能な地域社会をつくるためには、お金を生み出し、回していくエンジンをどう見つけるかが重要です。利益の出せない分野は全て廃止するくらいの覚悟が必要です。腹を括りながら、様々なご意見をいただければ、本会議が実りあるものになると思っています。

### < 3. 委員紹介 >

- 会 長： 官を代表しての参加となります。ある意味行政に染まりきっているのです、突飛な意見は出てこないかもしれません。皆さまの意見を期待しています。
- 委 員： まちづくり協議会の理事と、小学校で PTA の副会長をしています。常日頃、保護者の方々と協力して活動しています。
- 委 員： 東京でサラリーマン生活を 38 年間送ってきました。サラリーマン生活の最後の時代に東日本大震災が起こり、私の会社が東北に支援をすることになりました。地方創生は、これまでのキャリアとほとんど関係ないですが、4 年間東北に足を運ぶ中で郷土愛が生まれ、何かやることがあると感じました。皆様と意見を戦わせながら、何かをクリエイトしたいと思っています。
- 委 員： 南三陸町でインターネットショップの店長をしています。震災後に U ターンで戻ってきました。戻ってきた理由は、この町に可能性を感じたからです。実際に 50 人以上の方がこの町で起業したり、新しいことを始めています。前向きな考えで、この町をいいものにしていきたいと思います。
- 委 員： 幼稚園で教諭をしています。家でも小学生の子どもが 2 人います。長男は南三陸町に残ることを希望し、今年町内に就職しました。子どもたちがいつまでも住み続けたと思える南三陸町にできるように役に立てればと思い参加しました。
- 委 員： 普段は菊づくりをしています。この町がとても好きで、住みやすい町だと思っています。力になればと思い参加しました。
- 委 員： 漁業を営んでいます。震災後に、漁船を使った観光事業を立ち上げました。海だけではなく、南三陸町の全てが好きです。
- 委 員： 南三陸職業紹介センターで相談員をしています。一人でも多くの方々に、希望する職種を斡旋したいと思い頑張っています。
- 委 員： 放送局で記者をしています。取材で南三陸町にもお邪魔しているので、皆さんともお会いしたことがあるかもしれません。皆さんの話を伺いながら一歩前に出て、何かしら役に立てることがあると思っています。

- 委員： 南三陸研修センターで働いています。今年の 4 月に住所を移して南三陸町民になりました。震災直後からボランティアで関わりはじめて、いつの間にか地元よりも家族のような存在が多くいる町になっています。これから結婚して子どもを産んでいく女性の立場としても、この会議に向き合っていかなければいけないと思っています。
- 委員： みちのく伊達政宗歴史館で非常勤の学芸員をしているため、学識経験者の枠に入っていますが、普段は南三陸町で林業経営をしています。私事ですが、4 月 7 日に子どもが生まれました。子どもが生まれてなおさら、子どものためにも南三陸町をいいものにしなければいけないと思っています。
- 委員： 南三陸町観光協会で働いています。総務省の復興応援隊という制度を利用して南三陸町に来ています。この町がとても気に入って、このまま住み続けたいと思っています。観光の仕事をしていることから、外部の方とお会いすることが多く、住んでいる人が居心地のいい町というのが持続できる町だと思っています。住んでいる私たちがどういう町にしたいか、真剣に話していきたいと思っています。
- 委員： 町内で運送業を営んでいます。4 歳と 5 歳の娘がいて、現在は気仙沼市に暮らしています。元々は南三陸町の歌津出身で、東京で 6 年間仕事をした後 U ターンしてきました。運送を通じて、この地域の雇用の受け皿等産業貢献できればと思って日々仕事をしています。
- また、4 月に合同会社 MMR という会社を立ち上げました。南三陸にたくさん眠っている驚くべき資源の活用を、あらゆる部分で担っていける会社になりたいと模索中です。
- 委員： 銀行員として、現在は東北 6 県の地域活性化に携わっています。転勤族で九州、関西、北陸などを回りました。縁があって、東北は 2 回目の勤務になります。よそ者として、いい意味での厳しい意見を伝えることが、私の役割だと思っています。
- 委員： 来月、戸倉で「ちょこっと」というカフェをオープンします。子どもが 5 人いるので、少子化対策に貢献していると思います。子どもたちが地元で伸び伸びと暮らせるために協力できたらと思っています。
- 委員： 材木会社を経営しています。地域の中小企業の経営者としての視点や、林業、製材業、それだけではなく森、里、海、川連環という視点で皆さんと話ができればと思っています。南三陸町にはポテンシャルがあり、今回の震災を通じて露になってきています。これをチャンスとして、真の復興に向かい議論ができることを楽しみにしています。

#### < 4. 協議等 >

##### 1) 会議の趣旨と進め方について

・事務局より、資料 1「まち・ひと・しごと創生について」の説明を行った。

会 長： 今後、本会議は全 3 回開催されます。会議の趣旨は、町としての人口ビジョン及び総合戦略をつくるにあたって、皆様のご意見をいただき、その内容を庁内の部会で調整をした上で、議会に対して報告することになります。

委 員： 全 3 回の会議では足りないと思います。本会議以外にもワーキングを行った方がいいと思います。

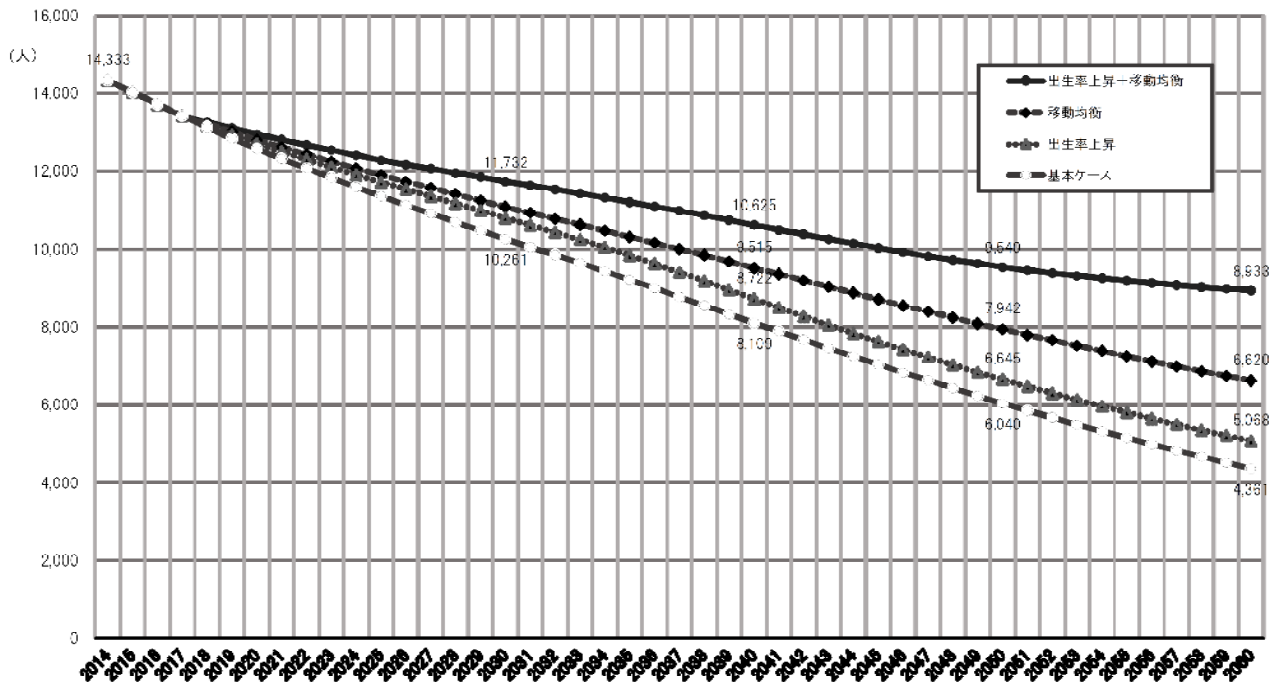
事 務 局： 推進会議とは別に、住民向けのワークショップを準備しています。皆様のお仲間を呼んでいただき、ご意見をいただくことも考えています。また、この会議だけで何かが決まるとは思っていません。この会議をきっかけに、皆さんから回りの方々に情報発信していただき、そこから何かが生まれることを期待もしています。

委 員： やる気のある人たちが集まっているので、皆さんの周りにも同じような人たちがいるはずですが、その人たちがもっと大きな核をつくっていかないと、戦略ができてでも実行に移せなくなります。広めていくためには時間がかかると思いますが、それをやらないと戦略は画餅になってしまいますので、とても重要なことだと思います。

事 務 局： 厳しいご意見をいただきましたが、嬉しい悲鳴を上げることになりそうです。全 3 回の会議の中で議論が終わると思っていないので、そこには対応する方策を考えていきたいと思っています。

## 2) 人口ビジョンについて

・事務局より、資料 2「南三陸町人口ビジョン（素案）抜粋版」の説明を行った。



※町独自推計に基づくシミュレーション

図 14 推計ケースごとの人口動向の比較

※資料 2「南三陸町人口ビジョン（素案）抜粋版」より

会 長： 衝撃的な数字が出てきました。何もしないと 2060 年には人口が 1 万人減ってしまいます。

委 員： 人口が減っても町が持続可能であればいいと思っています。人口が何人というよりも、人口ピラミッドの年齢構成が寸胴になっていけばいいと思います。数字があれば目標を立てやすいので、税収入の点から、どれくらいの人口があれば丁度いいのかというデータを出してほしいと思います。

事 務 局： 本町のような小規模自治体の場合は、入ってくるお金の多くは国絡みであり、予測しがたい状況ですが、具体的な数字がでたらお伝えします。

委 員： 図 14（推計ケースごとの人口動向の比較）について、2060 年までしか推計が載っていないのですが、この先どこかで人口は安定するのですか。

事務局： 上 2 つのケース（出生率上昇＋移動均衡、移動均衡）は安定に向かいます。下 2 つ（出生率上昇、基本）のケースは消滅に向かいます。一番上のケース（出生率上昇＋移動均衡）では、2100 年くらいに、5,200 人程度で安定する計算になります。

委員： 中には現状よりも人口を増やす目標の自治体もありますが、今回提示された案は、私としては比較的現実的という印象です。

出生率については、子育て環境を根本的に考えないと上昇させるのは簡単ではないと思います。インパクトから言っても、転出超過に歯止めをかけるのが現実的だと思います。特に出て行く人がなぜ出ていくのかを把握することが重要です。

驚いたのが、登米市への転出が 5～6 割あることです。なぜ登米市へ出ているのか。要因分析については様々な示唆があると思います。元々南三陸町に住んでいて本来は出たくないけど出る人と、それ以外の別の理由で出る人と、それぞれについて十分に分析する必要があると思います。

委員： この問題について取材をしたことがあります。要するに、登米市の方が病院もショッピングセンターも近く便利だからです。三陸道縦貫自動車道が開通することで一層交通が便利になるので、ストロー効果についても考えなければいけない状況です。逆に、転入者は、震災前から同水準で 300 人前後確保できているのはなぜですか。

事務局： 要因の分析はあまりできていませんが、震災後も転入者が結構いると感じています。出入りで言うと、一度住民票を移して、また帰ってくる人が一定数いるという印象です。

委員： 震災前からある程度人を呼び寄せる魅力があったのなら、その魅力を探してもっと伸ばすことが、転入者を増やすポイントになると思います。

委員： 先ほど南三陸町に住んでいるような自己紹介をしましたが、現在はまだ登米市に住んでいます。町内で家が見つからないというのが理由の一つです。南三陸町に移住したい理由は、求めるものが生活の便利さよりも自然環境だからであり、またチャンスや可能性が多くあるからです。

転出をいかにくい止めるかという話がありましたが、南三陸町での生活に何を求めているかが大事だと思います。頑張ってくい止めるのではなく、今の南三陸町が好きという人を増やす方が、早い段階で効果が生まれると思います。

委員： 今不便でも残っている人たちがなぜ残っているのかが重要だと思います。

委員： 私は家が流されたので、現在仮設住宅に住んでいます。うちの場合は一番上の子が高校になる時でしたので、どうしても進路を考えると町内に残りたいと思っていましたが、仮設住宅に入ると 3、4 歳の子どもが周りの人たちにうるさいと言われるので、仕方なく登米市に引っ越した同級生もいました。

委員： 人口減少は南三陸町に限ったことではなく、日本全国が同じ状況です。人口を増やさないと町が成り立たないのかを改めて考え、人口は減ってもしたたかに強い町づくりをすることが大事だと思います。過疎地へ行くほど、いつまでも生産年齢人口だったりしますので、高齢者が活躍できるまちづくりも考えられると思います。

もう一つ、定住を持ってしか地域は成り立たないのかと考えます。産業が盛んになれば、夜間人口はそれほどいなくても、昼間人口として引き受けることができます。そういう意味では、全く悲観的ではなく、新しい地域の形を皆で考えて、新しい南三陸モデルになるのもいいと思います。

会長： 本町の場合は、復興の過程でどうしても登米市に転出せざるを得なかったことは間違いないです。それを食い止めるために、町として復興事業を加速させている背景はありますが、大規模な事業ですので長いスパンがかかります。そのため、特に若い世代の方々は、南三陸町に住む地盤ができるまで待ってられず、子どもの学校のことも考え、家族で出てしまっているのが現状です。

委員： 人口減少は当たり前と考えた方がいいと思います。本来、定住人口というのは一つの指標でしかなく、それだけにこだわらなくていいと思います。この指標を過度に評価し過ぎていると思います。

皆さんが南三陸町のポテンシャルは高いと言いますが、ライフスタイルが多様化している中で、多様化したうちの一つを南三陸町が提供できることが大きいと思います。南三陸町の魅力は、海、山があるし、一次産業が全部揃っているのも、やろうと思えば自給自足ができることです。金銭的な価値ではない部分はかなりあると思います。そういうことを 20～30 代に訴えかけられる町になればいいと思います。



委員：これから先 50 年、100 年先の世の中がどうなっているかを考えると、人口問題や温暖化問題等様々な問題があり、おそらく今までのような生活ができなくなると言われています。それを一番感じているのが若い世代の人たちだと思います。どんなに頑張っても豊かに暮らしても、それは一つのパターンでしかありません。人にとって大事なことは、自分の住む場所があり、周りに自然が溢れていることです。これからの時代を考えると、南三陸町のような町が必要とされる時代が必ず来ると思います。

南三陸町の魅力となる資産について、もう一回突き詰めて考えることが重要です。価値観が変わって来ている中で、そのような価値観が変わった人たちが集まる町を目指してもいいと思います。

フランスに美しい村がたくさんありますが、これらの小さな自治体がどのように成り立っているのかを調べるといいと思います。高齢者ばかりの村で、公共サービスがどうなっているのか分かりませんが、彼らは村を出て行こうとしません。都会に住んでいる若者たちが、将来お金を貯めて住みたいと考える憧れの場所になっています。

委員：私は震災以前の U ターン者ですが、東京に 6 年在住して戻ってきました。なぜ戻ってきたのかと言いますと、南三陸町の自然が好きだし、仲間が多くいるし、仲間と海や山で遊んだ経験があるからです。東京で生活していて寂しくなった時に、やはり地元がいいという思いがあり、戻ってきたのだと振り返って思います。お金だけではない価値観が南三陸町には多くあります。震災に関わった人たちが掘り出してくれました。震災後、転入者数が安定しているのは、そういうことなのかと思います。

戦略としては、地域でできる魅力ある仕事をつくるのが重要だと思います。南三陸町は他の町との比較で、漁業や観光が盛んな町です。漁業体験をはじめとした南三陸町ならではの魅力を尖らせて、あるいは農業でも林業でも、稼げることを外部に発信すべきだと思います。地域からお金を出ないようにするだけではなく、外からいかにお金を引っ張るか、南三陸町の魅力を探して尖らしていけばいいと思います。

委員：最終的にはこの問題を町民の方が知って、皆で取り組む必要があると思います。そのためには、伝え方が重要だと思います。例えば、人口が何千人になるという伝え方ではなく、小学校が 1 校なくなりますという説明の方が住民も納得すると思います。

その他、I ターンしてきた人たちに、どのような価値観で南三陸町に来たのかをヒアリングすると参考になると思います。

委員：都会に出たいという理由だけで出て行く人もいるので、そういう人たちは一度外に出れば南三陸町の魅力に気付くと思います。ですので、出て行く人は出して、U ターンと外部からの転入者を呼び込むことに力を入れていけばいいと思います。

委員： 私は農家をしています。後継者の確保が問題です。子どもがいますが、私からは家を継げとは言いたくなく、親の背中を見て自分で決めて欲しいと思っています。

震災後、土の具合が悪くなくてまだ一回も出荷ができていません。収入はないので今はアルバイトをしながら休みの日に農業をしている状況ですが、いつかたくさん稼げるようになりたいです。サラリーマンは収入が決まっているけど、それに対して農家は夢があると思っています。

委員： うちも娘が 2 人います。長女は、仙台市から南三陸町に帰ってきて、仕事をしています。2 番目の子は仙台市で就職しましたが、南三陸町が大好きで、おそらく家があれば南三陸町に戻って来て就職したと思います。南三陸町にはいいところが多くあるので、娘に戻ってきてもらい、加えて若い人たちが大勢入って来れる町にしたいと思っています。

委員： 2 点あります。一つは、人口減少が明らかな中で、5,200 人だからこそ今までできなかったことができることもあると、この会議で気付きました。同級生が 20 人になるというのはすごく贅沢で、充実した教育ができると思います。

もう一つは、転入者を増やすことに関して、私も含めて I ターンで来る人は物好きだと思います。人口の総数ではなく、どういう人を呼び込むかが大事だと思いました。

委員： U・I ターンはいいことだと思いますが、その人たちが一時的に来ただけでは続かないので、この町に残っている人たちが住み続けられるように、行政サービスを充実して欲しいと思います。お金ではないというのも分かりますが、病院に行くのも、進学させるのもお金がかかります。町の奨学金は充実していないと思うので、子どもたちに学べる場を与えることに行政がもっと頑張りたいというのが本心です。

### 3) 総合戦略の基本方針について

- ・事務局より、資料 3「南三陸町の総合戦略の基本方針（案）」の説明を行った。

委員：先ほどの、生産年齢は 70 歳でも 80 歳でもいいというのが印象に残っています。定住促進の対象には、若者だけではなく、中高年も含めて年齢層を広げた方がいいと思います。年齢がもう少し上の方だと、子どもと一緒に来て、子どもにはこの町が新しいふるさとになります。将来、価値観が多様化しているのは若者だけではないので、そういう人たちにも門戸を広げているという姿を見せる意味でも対象を広げてもいいと思います。

委員：農業も漁業も 70～80 代でも現役であり、そこに彼らの価値が隠れている部分はまだあると思います。おじいちゃん・おばあちゃんの知恵、地域で今まで受け継がれてきた伝統、歴史、技、そう言ったものに価値があると思うので、70～80 代でも輝けるような町となれば、ずっと仕事を頑張ってきた人たちが、のんびりした田舎で最後を迎えたいとか、まだまだ仕事をしたいとか、地域に関わりを持って生活したいとか、都会から引っ張ることができるのではないかと思います。

委員：高齢者だから税収が無いのではなく、高齢者にもしっかり稼いでもらい税金を納めてもらえばいいと思います。年金に頼らなくても生きていける町というところまで広げていけば、年齢を問わない戦略が可能になると思います。

委員：私は対象を絞った方がいいと思います。結果的に高齢者の方も移住してくるのは素敵なことですが、戦略はいかに実現するかが重要であり、あれもこれもとなると結局全てが中途半端になります。

若者定住策の重点的推進の中の 3 番目の項目も、5 つは多いと思います。例えば、文化・環境・教育・健康・共生の中でも教育だけに絞って 5 年間行っていくなど、目標を絞った方が動きやすいですし、戦略も立てやすいと思います。

委員： 若者が子どもを産むことが常に前提にあり、子どもが産まれないと町が成り立たないということですが、町の存続が目的なのか、町にいる人が幸せになることが目的なのかを考えた方がいいです。

徳島県の上勝町では、葉っぱビジネスでお年寄りが稼いでいて税収を生んでいます。また、病気になる老人が少ないのも、生涯現役だからではないかと思います。医療費もかからないので、税金も使わないで済みます。お金はないけど皆幸せという方向性もあると思います。あれもこれもではなく、南三陸町は将来どういう形をもって幸せと言えるのかを決める必要があると思います。

また、2年任期でPDCAサイクルをチェックするという話がありましたが、2年で結果が出るものではないので、サイクルを回せないと思います。

会長： 対象については意見が2つに分かれました。事務局としては、あまり幅を広げてしまうと実現性がなくなってしまうと考え、若者に絞った形で提示しました。

生涯現役という話がありましたが、お年寄りは確実に増えていますし、介護保険の認定率も上がっています。老老世帯、単身老人世帯が増えているのが南三陸町の現実です。その方々もここで安心して暮らせる社会をつくるためには、共生していくことが大事だと思っています。そのためには、まず人口ピラミッドの歪な形を少しでも元に戻す必要があるという考えが第一になってきます。基本方針として、若者定住策の重点的推進を行いたいというのが町のメッセージだと思っていただきたいです。

また、会議が全3回では足りないという意見については、先ほど事務局と協議した結果、追加する方向で考えています。

委員： 若者に重点を置くのは賛成です。ただし、高齢者を色々な意味で活力ある形で支えていくことは大事だと思っています。

先ほどもあったように、若者定住策の重点的推進の中の三番目の項目に示された5つの機能については、行政サービスと捉えた時に、財政制約が厳しくなる中で、ある程度絞る必要があると思います。その中で、必要な機能を確保するためには隣接の市町村との連携が必要だと思っています。お互いに補完し合うことができれば、南三陸町が全部負担しなくても、連携により充実した生活が享受できるような仕組みを構築することができるという観点も必要だと思っています。

事務局： PDCAサイクルは1年ごとに回すことになっていて、1年ごとの検証を5年間の戦略の中で続けていくことになります。

会長： チェックした結果を受け、途中で戦略を変えるのもありだと思っています。

事務局： 総合戦略では、必ず各戦略に対応した KPI（重要業績指標）を設定しないといけません。その施策を行った結果、何が起こったかということ必ず求められます。例えば、移住者を 1 年間に 10 人と設定した場合、それを達成したかを PDCA サイクルでチェックされます。戦略ごとに目標値を定めないとイケないので、実施する方としてはとても厳しい仕組みです。

委員： 技能や才能がある人に来て欲しいと思います。この町が必要としている技能を持った人は、より年齢が上の人の中にいるかもしれないので、若者以外の言葉で対象を定義してもう少し幅を広げた方がいいと思います。

委員： つまり、子どもが産めるかどうかということですか。

委員： 子どもが産まれることは結果です。この町が色々な意味で活発になると、やがて若い人も集まるし、生活が成り立つようになるので、子どもをもう一人増やそうと思う人も出てくると思います。若者に早く子ども産んでくれと言ってもそれは難しいです。

委員： 年齢基準で考えなければ、平均値は若者になるかもしれないですが、幅広い年齢を対象とした表現ができると思います。

委員： 年齢層ではなくコンセプトを示すといいと思います。例えば「生活冒険者」とかです。

委員： 介護保険等の話がありましたが、町としては正直なところ高齢者が増えると困るという考えでしょうか。

会長： お年寄りでも技能を持っている人が町内にも大勢います。町内でも、お年寄りの能力を生かす場をつくろうということで、お手伝いをしています。中高年については、まずは町内にいる方に能力を発揮していただき、戦略としては不足している若い世代を呼びこむことが町としての提案です。

委員： 少なくとも若者という表現ではない方がいいと思います。現在町内にいるお年寄りをどう生かすかという施策も大事だと思いますが、外からも来てもらえば相乗効果が期待できるので、年齢的制限を表だって示さなくてもいいと思います。

また、若者定住策の重点的推進の 3 番目の項目にある文化・環境・教育・健康・共生の五つが、幅広すぎるという意見がありましたが、見方を変えないといけません。これらは、全部どこかで繋がっています。例えば、環境、文化は教育で繋がると思います。考えなければいけないのは、少ない手法で大きな相乗効果が得られるような戦略だと思います。

委員： 若者を呼ぶ施策になると、日本全国がそれを行うので、自治体によって勝ち組、負け組に分かれます。若者の奪い合いが私たちの目指すモデルなのか疑問があります。他所の市町村では対象外となったお年寄りに対しても、どうぞ来てくださいとアピールする戦略もあると思います。この町が震災で得たものとして、色々な人たちが入ってきやすい雰囲気できたことがありますので、これは大きな強みに転化していけると思います。

委員： 私も若者という言葉ではなく、元気世代等うまい言葉をつければいいと思います。老人世代に移住してもらうということは、その後ろにいる子や孫が、お盆やお正月にはふるさとに帰るといふ動きにつながります。おじいちゃん、おばあちゃんが元気に笑顔で生活していれば、最終的に自分たちも移り住もうということにもなると思います。

後は、今住んでいる子どもたちが、どこまで南三陸町のよさを知って大人になるかが重要だと思います。それがあれば、一旦は外に出ても Uターンする人も出てくるし、もしくは町外でパートナーを見つけて町内に一緒に世帯を構える人も出てくると思います。子どもたちは、同級生が次々に転校し悲しい思いをしています。長男は、自分がふるさとで頑張っているところを見せて、一旦外に行った友達に戻ってきてもらいたいと言っています。

逆に、一番末っ子は、当時幼稚園児だったので、恐ろしい地震があった、恐ろしい津波があったというのは分かりますが、それによって南三陸町のどういうところが変わってきたのかということには分かりません。だからこそ、南三陸町がこれからどういう町になっていくのかを、どのように教えていくかが大切になると思います。

長男は今年高校 1 年生になりましたが、地元で高校があるにも関わらず、他の地域に出て行った子どもたちがすごく多いのを実感しています。県立高校なので町がどこまで関わられるかという問題はありますが、やはり志津川高校で学びたい、この町で生きていきたいと子どもたちが思えるような状況をつくっていかなければ、来年、再来年もそういうことが続くという危機感や寂しさを感じています。

会長： 若者定住ということで、隣の市町村と同じようなことをして奪い合いをしたり、一極集中した都会のお年寄りを皆地方に集めたりしてどうするのか、それこそ地方が大変になるのではないかという意見が出ました。これについては、国がモデルケースをつくって、よい取り組みには交付金を出すという形で制度が始まっています。ですから、気仙沼市や登米市でも同様に地方創生の会議を行っていて、ある意味、本町としていかに差別化できるかにかかっています。総合戦略の対象を若者という言葉で絞るのはどうなのかという指摘はそのとおりだと思います。実際に、事務局の中でも話は挙がりましたが、最終的には若者にターゲットを絞るべきとの考えになりました。これについては、改めて庁内の意見も聞いて取り扱いを検討します。

## <5. その他>

事務局：事務局の中で基本方針を決める時に何を考えたかを少し伝えたいと思います。若者についてですが、想定しているのは子どもを産む年代の女性です。男性については、年齢層は幅広く構わないと思っています。ただし、皆さんから頂いた意見は重要だと思っていますので、次回一緒に考えて決めたいと思っています。

また、重点的推進の3番目の項目に挙げた、文化・環境・教育・健康・共生は一つに繋がるという意見はその通りだと考えています。

- ・事務局より、全3回の会議では少ないという意見を受け、各委員に本会議の月一回開催への変更を伝えした。  
(ただし、毎回全員が集まることは難しいことを前提に進めていくこととする)
- ・会長より、各委員に対し、資料3「南三陸町総合戦略の基本方針（案）」についての意見を、次回会議までに事務局に伝えるように依頼した。
- ・次回会議の日程については、8月25日（火）で調整することを確認した。
- ・事務局より、8月19日（水）18:30～開催予定の住民ワークショップの案内を行った。

以上